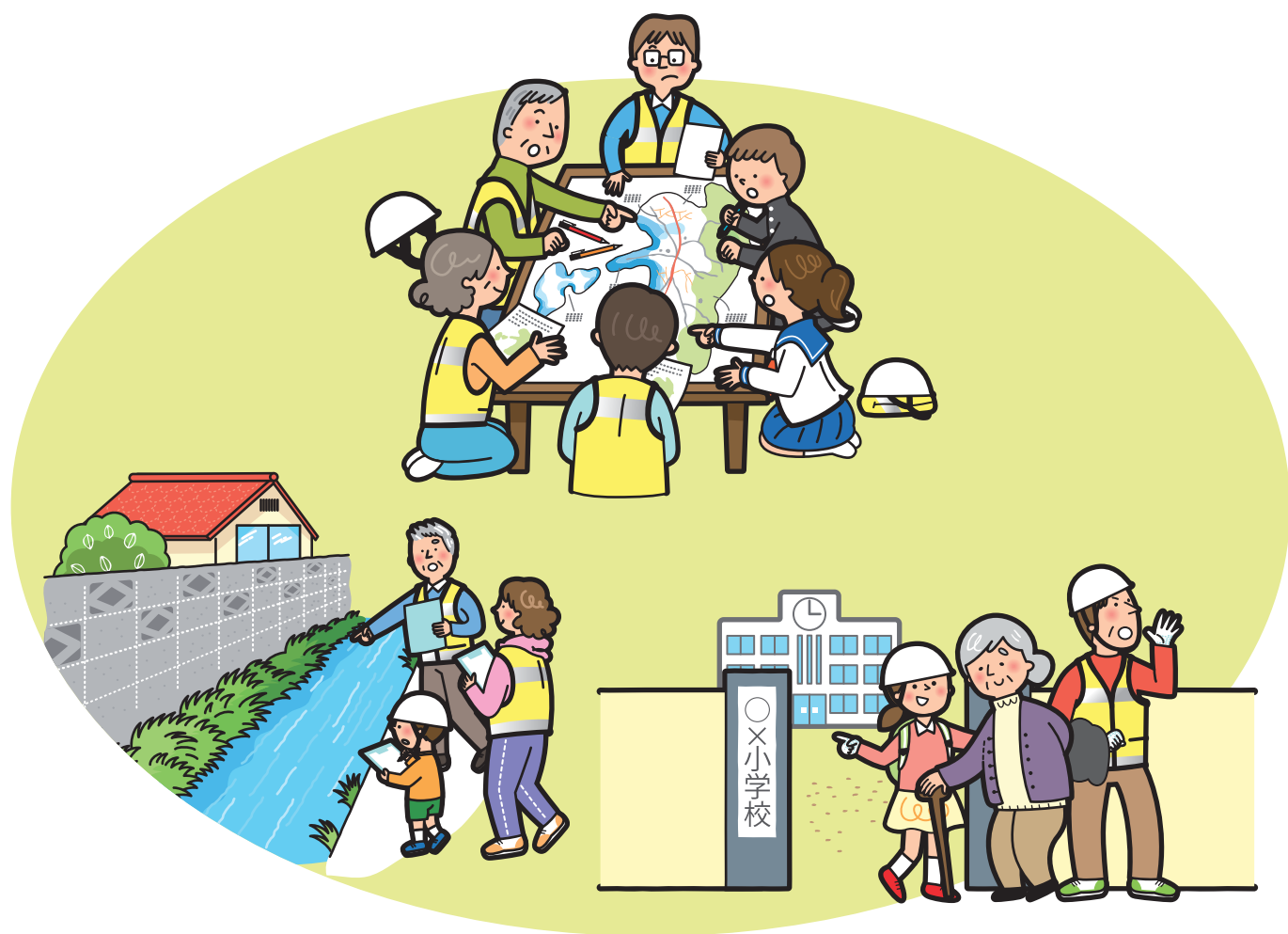


自主防災活動事例集

(平常時編)



熊本県

目次

はじめに.....	01
-----------	----

－ 自治会活動応用編 －

●夏祭りで防災グッズ配布.....	02
●地区運動会で避難訓練・簡易担架搬送競争.....	04
●もちつき大会を活かした防災研修.....	06
●どんどやで消火訓練・炊き出し.....	08
●高齢者いきいきサロンと保育園の合同防災訓練.....	10

－ 地域団体連携編 －

●子ども会との防災マップづくり.....	12
●老人会との防災研修、「命のバトン」配布.....	14
●2地区合同の防災研修、防災グッズ配布.....	16
●老人福祉施設との高齢者対象防災訓練.....	18
●NPOとの防災料理教室.....	20
●九電・NTT協力による電柱への標高表示.....	22
●水俣市自主防災組織連絡協議会の発足.....	23

資料編.....	24
----------	----

はじめに

東日本大震災以降、地震や豪雨・土砂災害など、全国各地で大きな災害が頻発しています。本県においても平成24年7月の九州北部豪雨災害で死者・行方不明者25名、住家の全壊・半壊1,462棟という甚大な被害が発生しました。

しかし一方で、共助の要である「自主防災組織」が活躍し、避難の呼び掛けや誘導により、人的被害を回避できた例がありました。このように、公助が機能しにくい災害初期の隣近所への声かけが、多くの人命を救うことに繋がります。

熊本県の自主防災組織率は、平成26年10月1日現在で73.4%となっています。一方、全国平均は、平成26年4月1日現在で80.0%ですが、平成20年に20%以上あった差が年々縮まり、ほぼ同水準まで迫ってきました。

この事例集では、自治会活動を応用し、または地域団体と連携し実施しているユニークで負担の少ない自主防災活動の事例をまとめています。

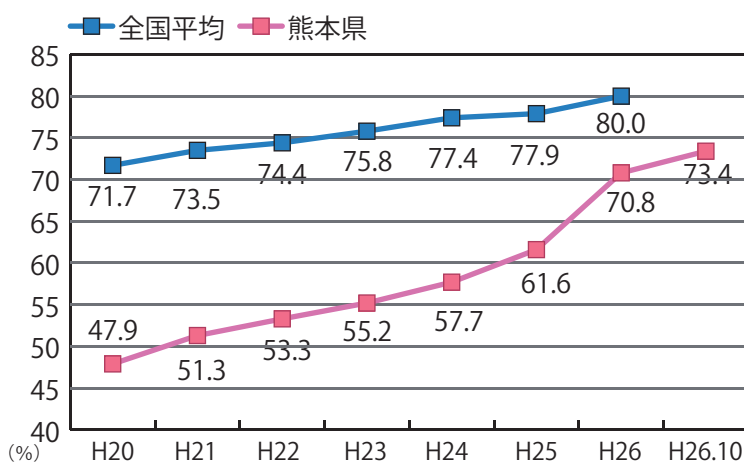
本書が皆さまの今後の活動の参考となり、県内の自主防災活動がますます活発化することを期待しています。



H24.7月九州北部豪雨 熊本市



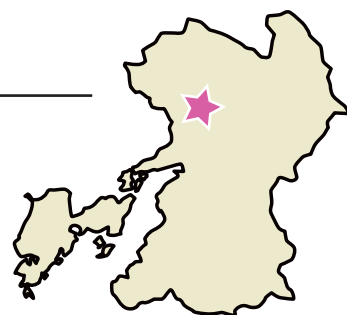
H24.7月九州北部豪雨 阿蘇市



本県の自主防災組織率の推移

夏祭り で防災グッズ配布

自主防災組織名：黒石団地区自治会
所在地：合志市黒石団地区



活動内容

黒石団地区で毎年開催されている夏祭りを“防災夏祭り”として開催した。

“防災夏祭り”では、恒例の子ども神輿や総踊りの他、ステージ上の一コマで、当地区で最も懸念されている「地震」についての防災講話を実施。また、会場内に防災グッズを体験できるブースを一カ所設け、例年この祭りで行っているお楽しみ抽選会の景品として耐震マットを200枚用意し、参加者へ配布した。

また、区で購入した青パトをお披露目し、地域住民に募集していた青パトの名前について決定したことを祭りの場で報告し、区としての防災・防犯の取組みをPRした。

耐震マットをもらった住民は「防災に関心はあるが、自分で購入して使うということがない。せっかくもらったので使ってみたい」と感想を述べていた。



耐震マットを当選者に配布



ステージで地震についての防災講話

活動のポイント！



年間の恒例行事の中で、地域住民が最も集まる夏祭りを活用した啓発活動。住民が個人ではなかなか購入しない防災グッズを自主防災組織が配布することで、地震に対する防災力の強化と住民の防災意識の向上を図った。

当日までのスケジュール等

- 5月
- 夏祭り実施計画素案の作成
 - 出店する団体や市等への協力依頼

- 6月
- 第1回企画会議
構成メンバー：自治会役員、合志市防災担当職員
会議内容：計画素案を協議、今後のスケジュール、役割分担等

- 7月
- 案内チラシの作成・配布
 - 関係者との諸調整
 - 機材・物品等の調達
 - 景品（防災グッズ等）の用意

- 8月
- 防災夏祭りの開催（8/2）



Check!

防災グッズは最近では次から次に新しいものが開発されており、比較的安価なものも多く、ホームセンターやインターネットで簡単に取り寄せることができます。

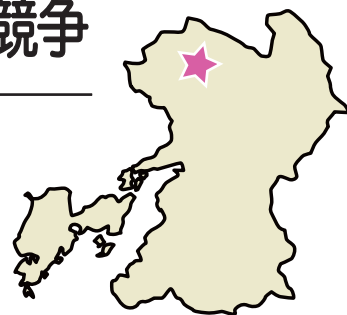
地区の基本情報

人 口	2,990 人	世 帯 数	1,205 世帯
高 齢 化 率	26.6 %	自治会加入世帯数	1,025 世帯
地理的条件	合志市の南西部に位置し、国道 387 号線、熊本電機鉄道が走っており、熊本市のベッドタウンとして住宅が密集している地域である。		
想定される主な自然災害	地震		
定期的実施している自治会活動（防災活動を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練（3月） ・一斉清掃作業（6月） ・夏祭り（8月） ・敬老会（9月） ・文化祭（11月） ・もちつき大会・どんどや（1月） 		

地区運動会で避難訓練・簡易担架搬送競争

自主防災組織名：川北区自主防災組織

所在地：山鹿市川北区



活動内容

川北区で毎年開催されている地区運動会は、市外に移り住んだ人たちも参加する地元では最も大きなイベントのひとつである。また、開催場所である中富小学校は、地震発生時における最寄の公的避難所でもある。

当日は、運動会の前段で、布田川・日奈久断層帯により震度5強の地震が発生したという想定で避難訓練を実施した。訓練は防災行政無線を利用し、会長が住民へ地震発生と避難を呼び掛けて開始された。住民が小学校へ避難する中、役員は避難ルートの危険箇所をチェックし、一方で避難行動要支援者を避難支援者が小学校へ誘導するという内容だった。

住民が小学校へ集まった後に運動会が開始。地元消防署協力のもと、競技項目の一つとして簡易担架搬送競争を実施した。競技は子どもと保護者たちが一緒になって盛り上がった。



避難訓練と合わせて危険箇所をチェック



簡易担架搬送競争

活動のポイント！



運動会会場であり、避難所でもある学校への登校を避難訓練として実施することで、別途避難訓練を実施する手間を省いた。

また、運動会の項目に簡易担架搬送競争を取り入れることで、緊急時に身近な物で担架が作れることを学ぶ機会を設けた。

当日までのスケジュール等

8月

- 実施計画素案の作成
- 消防本部や市等への協力依頼

9月

- 第1回企画会議
構成メンバー：自治会役員、山鹿市防災担当職員
会議内容：計画素案を協議、今後のスケジュール、役割分担等

10月

- 案内チラシの作成・配布、関係者との諸調整
- 機材・物品の調達等
- 第2回企画会議
構成メンバー：自治会役員、山鹿市防災担当職員
会議内容：当日の流れ、役割分担、準備物の最終確認

11月

- 区運動会の開催（11/3）



避難訓練の受付

Check!

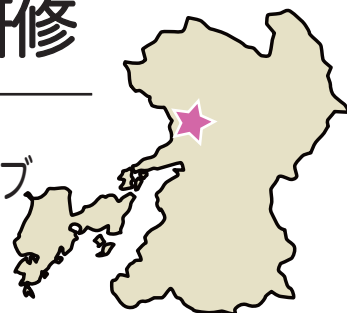
簡易担架の作り方は事前に地元消防署等からレッスンを
受けましょう。乗せた人を落とさないのが鉄則！

地区の基本情報

人 口	363人	世 帯 数	111世帯
高 齢 化 率	36.1%	自治会加入世帯数	111世帯
地理的条件	一級河川の菊池川沿いに田園地帯が広がる平坦な地域。住宅が堤防より低いため、菊池川が越水すると一気に浸水が広がる懸念がある。		
想定される主な自然災害	風水害（内水被害含む）、地震		
定期的 to 実施している自治会活動（防災活動を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動（6月、11月） ・地元八幡宮清掃（7月、12月） ・敬老会（9月） ・区民運動会（11月） ・どんどこや、もぐら打ち（1月） 		

もちつき大会を活かした防災研修

自主防災組織名：大江校区第3・4・5町内自主防災クラブ
所在地：熊本市中央区大江校区



活動内容

大江校区第3・4・5町内自主防災クラブは、隣接する3つの町内会が合同で一つの自主防災組織として結成されている。

「まず地域のコミュニティの強化が大事」との考えから、活動が低迷していた自治会活動を見直し、当地域で初めてもちつき大会を開催した。

もちつき大会当日は、集まった子どもたちやその保護者に対して、熊本市が作成している水害ハザードマップと地震の揺れやすさマップを配布し、県の担当者がマップをもとに事前の備えについて講話を行い、地域住民の防災意識の向上を図った。

また、婦人部による炊き出し訓練も実施し、女性リーダーの指導のもと、ちらし寿司と豚汁の配布が行われた。



子どもたちと一緒に餅つき



婦人部による炊き出し

活動のポイント！



当初から人的・経済的な負担を考慮し複数の自治会で自主防災組織を設立。もちつき大会もその利点を活かして、うまく役割分担して実施している。また、もちつきをすることで、子どもや保護者をターゲットとした。

当日までのスケジュール等

- 8月
- 企画書案の作成
 - 子ども会、老人会等への協力依頼

- 9月
- 第1回企画会議
構成メンバー：町内会・子ども会・老人会役員
会議内容：企画書案を協議、今後のスケジュール、役割分担等

- 10月
5
12月
- 案内チラシの作成・配布、関係者との諸調整
 - 機材・物品の調達等
 - 第2回企画会議
構成メンバー：町内会・子ども会・老人会役員
会議内容：当日の流れ、役割分担、
準備物の最終確認

- もちつき大会の開催（12/23）



Check!

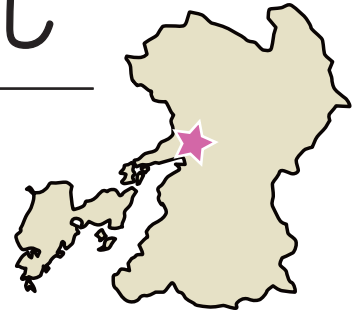
もちつきを各家庭でやらなくなった現代、もち米の仕込みは高齢者、もちつきは子どもたちと、世代間で交流できる行事です。地域の様々な世代が顔の見える関係をつくっておくことがいざという時に役立ちます。

地区の基本情報

人 口	820 人	世 帯 数	530 世帯
高 齢 化 率	20.9%	自治会加入世帯数	416 世帯
地理的条件	市内中心部に近く、一級河川「白川」の左岸に位置する。住宅が密集しておりアパートやマンションが混在する、人の出入りが比較的多い地域である。		
想定される主な自然災害	浸水害、地震		
定期的実施している自治会活動(防災活動を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（3月） ・一斉清掃（6月・11月） ・もちつき大会（12月） ・防犯パトロール（月/3回） ・資源ゴミ回収（第2・4土曜） 		

どんどやで消火訓練・炊き出し

自主防災組織名：上松山区自主防災組織
所在地：宇土市上松山区



活動内容

上松山区で毎年1月に開催されているどんどやを“防災どんどや”として、防災行事も含めて開催することとした。

比較的災害の少ない地域だが、住民は地震や火災に対する関心は高く、そこに焦点をあてた内容とし、より多くの住民の参加を促した。

当日は、本来のどんどやの脇に小さなどんどやを造り、地元消防署から提供のあった水消火器を使い、署員の指導のもと消火訓練を実施した。併せて、住民に配布したハザードマップをもとに、県の防災担当職員から地震に対する備えを中心とした防災講話を実施した。

また、寒空の中、子ども会の協力のもと、非常食を使った炊き出しを行い、300食を完食した。



水消火器を使った消火訓練



地震ハザードマップの確認

活動のポイント！



当地区が自主防災組織を立ち上げてから初の活動で、年間をとおして住民が最も集まる“どんどや”を活かしたイベントを企画。

水消火器を使うことで、子どもたちが楽しみながら、安全に消火訓練を体験した。

当日までのスケジュール等

8月

- 第1回企画会議
構成メンバー：町内会・子ども会・婦人会役員
会議内容：イベント内容の検討

9月

- 第2～3回企画会議
構成メンバー：町内会・子ども会・婦人会役員
会議内容：内容の具体的協議、今後のスケジュール、役割分担等



10月

～

12月

- 案内チラシの作成・配布、関係者との諸調整
- 機材・物品の調達等
- 第3回企画会議
構成メンバー：町内会・子ども会・婦人会役員
会議内容：当日の流れ、役割分担、準備物の最終確認

1月

- 防災どんどやの開催 (1/11)



Check!

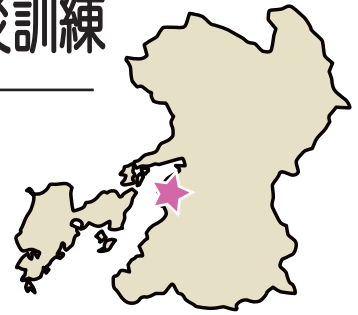
普段忙しい保護者層に、景品やお弁当付きのイベントを用意して興味を引く。自治会イベント集客方法の王道です。

地区の基本情報

人 口	2,313 人	世 帯 数	977 世帯
高 齢 化 率	21.6 %	自治会加入世帯数	977 世帯
地理的条件	市内で最も人口が多い住宅密集地域であり、背後に五色山を抱える。近くには布田川・日奈久断層が通っており、地震・火災が最も懸念される地域。		
想定される主な自然災害	地震、台風		
定期的実施している自治会活動(防災活動を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 (9月) ・もちつき大会 (12月) ・五色山清掃活動、どんどや (1月) 		

高齢者いきいきサロンと保育園の合同防災訓練

自主防災組織名：植柳校区自主防災会
所在地：八代市植柳校区



活動内容

植柳校区自主防災会は、植柳校区で定期的
に実施されている高齢者いきいきサロンを活用し、
サロン会場のすぐ傍にある保育園を巻き込んだ
津波想定での避難訓練を実施した。

高齢者いきいきサロンでは、県の自主防災組
織支援員に対応を依頼し、地震・津波に対する
日頃の備え、災害時の対応についての防災講話
を実施し、講話終了後に津波発生の想定で、避
難訓練を行う流れとした。

当日は、八代市が放送により避難勧告の発令
を伝え、サロンに参加していた高齢者が保育園
の園児とともに手をつないで近くの団地の2階
以上に避難した。また避難では自主防災組織と
消防団が協力し、避難誘導や避難完了の確認を
行った。



保育園児といきいきサロンの高齢者が一緒に避難



団地の2階以上に避難

活動のポイント！



自治会活動にはあまり参加の少ない高齢者に対し、サロンを活用して災害に対する備えやその時の対処方法を学習する機会を設けた。また、避難訓練では高齢者と園児の交流、双方の防災意識の向上を図る内容とした。

当日までのスケジュール等

4月

- 実施計画素案の作成
- 消防団、保育園、市等への協力依頼
- 第1回企画会議

構成メンバー：自治会役員、八代市防災担当職員
会議内容：計画素案を協議、今後のスケジュール、役割分担等



5月

- 関係者への周知・諸調整
- 機材・物品の調達等
- 第2回企画会議

構成メンバー：自治会役員、八代市防災担当職員
会議内容：当日の流れ、役割分担、準備物の最終確認

- 高齢者いきいきサロン及び保育園
合同避難訓練の実施（5/28）



Check!

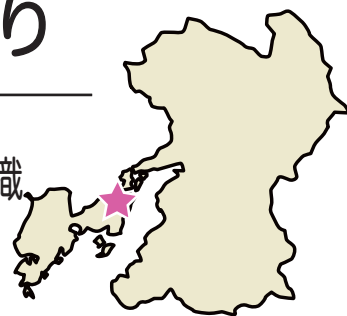
高齢者は、避難行動要支援者に見られがちですが、比較的健康であれば、避難所では炊き出しや他のお年寄りとのコミュニケーションなど、避難支援者になってくれます！

地区の基本情報

人 口	5,078 人	世 帯 数	2,121 世帯
高 齢 化 率	29.7%	自治会加入世帯数	1,607 世帯
地理的条件	一級河川の球磨川沿いにあり、近くには日奈久断層が通っている。平坦な地域で八代海にも近く、高潮や河川氾濫による浸水害が懸念される地域。		
想定される主な自然災害	浸水害、地震・津波		
定期的実施している自治会活動（防災活動を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉清掃作業（年2回） ・夏祭り・ふれあい祭り（8月・11月） ・敬老会（9月） ・校区民体育祭（10月） 		

子ども会との防災マップづくり

自主防災組織名：阿村第6自治公民館自主防災組織
所在地：上天草市阿村地区



活動内容

上天草市阿村地区は、海沿いに集落があり、背後にはすぐ山が迫っている地域で、津波の懸念はあるものの、地域で最も身近な土砂災害を想定した防災マップづくりを実施した。

子どもが集まりやすい夏休みの期間を利用し、自主防災組織のメンバーと子どもたちが一緒にテーブルを囲んだ。一時避難場所や公的避難所の位置、避難路等を確認し、上天草市が作成しているハザードマップを参考にどこまで土砂災害警戒区域等が掛かっていて、災害時にはどんな避難経路があるのかを話し合った。

大人だけで話し合っているだけでは気づかない、子どもならではの率直な意見を聴くことができ、また、マップづくりをとおして地域住民の交流も図ることができた。



土砂災害についての防災講話



子どもたちと防災マップづくり

活動のポイント！



座学ではなく防災マップづくりをやることで、子どもが興味を示すよう工夫した。子どもが参加することにより、同伴してくる保護者も一緒に作業を行うため、家庭防災といった面でも相乗効果が期待できる。

当日までのスケジュール等

7月

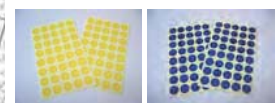
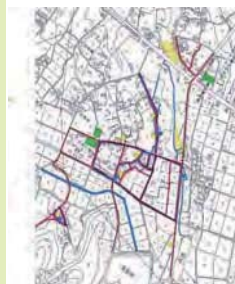
- 実施計画素案の作成
- 子供会、消防団への協力依頼



8月

- 企画会議
構成メンバー：自治会役員
上天草市防災担当職員
会議内容：計画素案を協議
今後のスケジュール
役割分担等
- 案内チラシの作成・配布
- 必要物品の調達
- 防災マップづくりの実施 (8/26)

マップづくりに必要な道具
個々の住宅がわかる白地図
縮尺 1/1000~1/5000
マジック、ドットシール
マジック消し など



Check!

防災マップづくりは、危険箇所や避難行動要支援者の把握などにもつながります。

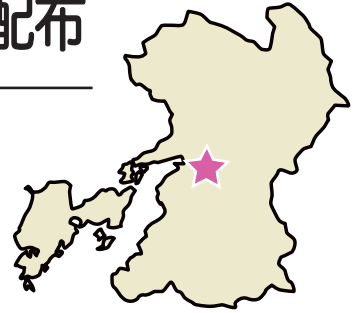
地区の基本情報

人 口	533 人	世 帯 数	194 世 帯
高 齢 化 率	30.9%	自治会加入世帯数	194 世 帯
地理的条件	熊本県天草諸島、上島北部に位置する。海岸沿いに住宅地があり、背後は山といった細長い地域である。		
想定される主な自然災害	土砂災害、高潮・津波		
定期的実施している自治会活動(防災活動を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・4~11月の毎月清掃・除草 ・夕涼み会 ・ウォーキング大会 ・地区運動会 ・ミニバレー大会 ・どんどや 		

老人会との防災研修、「命のバトン」配布

自主防災組織名：三加区防災組合

所在地：美里町三加区



活動内容

美里町三加区は、中山間地域で高齢化の進行が著しく、一人暮らしの高齢者が増加している。そのため、老人会と連携し、災害に対する日頃からの備えや災害時の対応についての研修会を開催した。

当地区は、特に昼間は高齢者ばかりとなることもあり、研修会当日は参加した高齢者に、緊急時の対応を円滑にする「命のバトン」を配布した。

命のバトンは、本人の名前や血液型、持病や普段から飲んでいる薬の名称、近親者の連絡先などを所定の用紙に書いて入れておくもので、平常時は冷蔵庫等に保管しておき、緊急時に駆け付けた消防や避難支援者等が、患者の情報を搬送先の医療機関等へ渡し、救急医療等の対処を円滑に実施することができる。研修会では、その用途や目的を説明し、高齢者の参加者全員が記入する機会を設けた。



台風・土砂災害についての防災講話



命のバトンの説明

活動のポイント！



命のバトンは持っている本人だけでなく、地域全体でその存在を認識しておく必要があるため、防災研修には消防団や消防署員、女性消防団、民生委員の参加を依頼した。

当日までのスケジュール等

- 8月
 - 実施計画素案の作成
 - 第1回企画会議
構成メンバー：自治会・老人会役員、美里町防災担当職員
会議内容：計画素案を協議、今後のスケジュール、役割分担等
- 9月
 - 命のバトンの作成
外側のデザイン、中身の記入内容の検討
- 10月
 - 第2回企画会議
構成メンバー：会長、美里町防災担当職員
会議内容：当日の流れ、役割分担、準備物の最終確認
 - 案内チラシの作成・配布
 - 民生委員、消防団等への参加依頼
- 11月
 - 防災研修会の開催（11/12）



氏名	生年月日	年齢	性別
住所			
連絡先			
参加したい団体の名称			
団体の名称			
団体の住所			
1ヶ月未満に加入している団体の名称			
緊急連絡先			
1 団体の名称	電話番号		
2 団体の名称	電話番号		
3 団体の名称	電話番号		
備考欄			

記入用紙

Check!

避難行動要支援者の避難支援は、命のバトンなど福祉の取組みと連携することで、支援者の負担を軽減することができます！

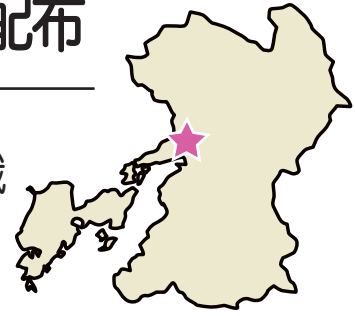
地区の基本情報

人口	203人	世帯数	68世帯
高齢化率	38.9%	自治会加入世帯数	68世帯
地理的条件	山間部に位置する美里町内の中では比較的急傾斜地が少なく、土砂災害の起こる可能性は低いが、高齢者が多いため災害時には配慮が必要な地域。		
想定される主な自然災害	土砂災害、地震災害、風水害		
定期的実施している自治会活動(防災活動を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・除草作業（5月、7月、9月） ・一斉清掃作業（6月） ・町民体育祭（10月） ・敬老会（9月） ・町内駅伝大会（12月） 		

2地区合同の防災研修、防災グッズ配布

自主防災組織名：本町1丁目区自主防災組織

所在地：宇土市本町1丁目



活動内容

宇土市本町1丁目区は、市内のほぼ中心部に位置し、住宅密集地であり、地震・火災が最も懸念される地域である。そこで地震に対する予防を重視した防災研修会を開催した。具体的には、宇土市で想定されている地震の規模と被害、それに対する家具の固定や備蓄の必要性などの講話を実施し、併せて参加者には、普段からそれぞれの家庭で備蓄や防災用品を揃えてもらうようにとの狙いから、非常持出袋を配布した。また、より多くの高齢者等に聴講してもらおうと、隣接する定府町区と連携し、地域の集会所として昔から利用している光国寺での開催とした。

なお、冬期に差し掛かっていたため、研修会では宇土市からインフルエンザの予防対策の講話を併せて実施した。



ハザードマップを見ながら学ぶ参加者



非常持出袋配布

活動のポイント！



地域住民が寄りやすいように、住民が普段から慣れ親しんだ集会所であるお寺を利用。また、色んな知恵を出し合えるよう、企画段階から2地区合同で会議を行い、当日まで役割を分担して準備を進めた。

当日までのスケジュール等

- 8月**
 - 第1回企画会議
構成メンバー：自治会役員（本町）、宇土市防災担当職員
会議内容：企画の検討
 - 企画書案の作成
 - 定府地区への共催依頼
- 9月**
 - 第2回企画会議
構成メンバー：自治会役員（本町・定府）、宇土市防災担当職員
会議内容：企画書案を協議、防災グッズの選定、役割分担等
- 10月**
 - 案内チラシの作成・配布
 - 宇土市福祉課への協力依頼
 - 防災グッズの調達
- 11月**
 - 防災研修会の開催（11/16）



Check!

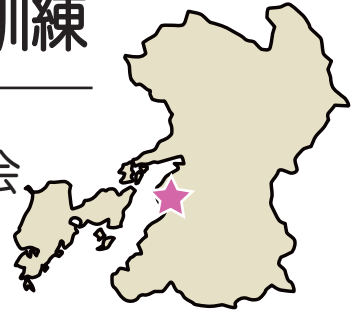
自主防災組織の活動は、平常時にいかに負担なく活動し、継続していくかが鍵！会長交代時には引き継ぎを確実に！

地区の基本情報

	本町1丁目区自主防災組織	定府町区自主防災組織
人口 / 高齢化率	136人 / 45.6%	140人 / 35.0%
世帯数 / 自治体加入世帯数	61世帯 / 61世帯	63世帯 / 53世帯
地理的条件	市の中心市街地であり、歴史的建造物や商店、住宅が混在する地域。近くに河川や山はなく、すぐ脇を通る布田川・日奈久断層による地震が最も懸念される地域。	
想定される主な自然災害	地震、台風	
定期的実施している自治会活動（防災活動を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練（4月） ・一斉清掃活動（6月） ・花植え活動（12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動（6月） ・お月見会（11月） ・花植え活動（11月）

老人福祉施設との高齢者対象防災訓練

自主防災組織名：高下西町第二町内自主防災会
所在地：八代市高下西町



活動内容

高下西町第2町内には高齢者団地があり、自治会としても団地における地震・火災発生時の高齢者への対応を懸念していた。そこで、高齢者団地のみを対象とした地震想定での防災訓練を実施し、その中で避難行動要支援者の避難支援訓練も行った。

避難所では、集まった住民への防災講話や消防署員からの救急救命講習、婦人部による炊き出しの他、避難後の2次災害を防止する観点から、同じ町内にある老人福祉施設に協力を依頼し、施設職員が避難所で血圧測定等の健康チェックを行った。

なお、避難の際は、自主防災組織のメンバーと地元消防団が協力して避難誘導にあたった。



避難行動要支援者の搬送



福祉施設職員による健康チェック

活動のポイント！



自主防災組織とともに共助の要となる消防団に協力を依頼し、訓練当日に避難誘導を実施した。また、普段から自治会と地域の福祉施設が関係を構築していたため、福祉施設の訓練参加につながった。

当日までのスケジュール等

- 8月**
 - 第1回企画会議
構成メンバー：自治会役員、八代市防災担当職員
会議内容：訓練内容、参加依頼団体の検討
- 9月**
 - 訓練計画の作成
 - 関係団体への協力依頼
- 10月**
 - 第2回企画会議
構成メンバー：自治会役員、八代市防災担当職員
会議内容：訓練計画の具体的協議、今後のスケジュール、役割分担等
 - 案内チラシの作成・配布、福祉施設、消防本部、消防団等との諸調整
 - 機材・物品の調達等
- 11月**
 - 防災訓練の開催（11/9）



Check!

東日本大震災以降、様々な企業・団体が防災訓練を実施しています。共同開催をすることによって、お互いの負担軽減はもとより、訓練参加者も増えて、より充実した訓練になります。

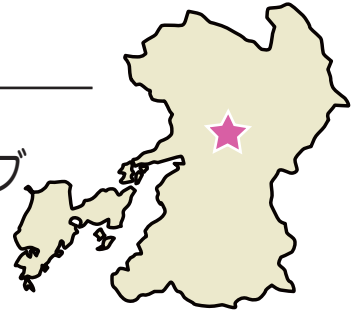
地区の基本情報

人 口	944 人	世 帯 数	492 世帯
高 齢 化 率	31.5 %	自治会加入世帯数	338 世帯
地理的条件	一級河川の球磨川、二級河川の流藻川沿いに位置し、近くには日奈久断層が通っている。住宅密集地であり町内に高齢者が多く入居する市営団地を抱える。		
想定される主な自然災害	浸水害、地震・津波		
定期的実施している自治会活動（防災活動を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃作業（年6回） ・夏祭り（8月） ・敬老会（9月） ・校区民体育祭（10月） ・防災訓練（11月） 		

NPOとの防災料理教室

自主防災組織名：ヴィラノーバ健軍自主防災クラブ

所在地：熊本市東区健軍東校区



活動内容

ヴィラノーバ健軍自主防災クラブはマンション単独で結成された自主防災組織である。

マンションは災害に強い面もあるが、エレベーターが停止した場合、上階に住んでいる高齢者がいれば孤立状態となる等、決して万能ではない。

また、災害時には道路閉塞により避難所へ行けない場合も想定される。

そこで今回の防災料理教室は、そうした観点をもとに、地震をうまく切り抜け、ライフラインが復旧するまで、家の中にあるもので食いつなぐための知識・技術を身に付けておく目的で開催された。

料理教室を開催するには、厨房設備が必要となることから、同じ町内にあるNPOが経営する工房に協力を依頼した。当日は、備蓄の必要性等の講話から料理教室という流れで実施し、料理は低カロリーな田舎料理をテーマに、電気を一切使わずガスコンロと一般の調理器具があればできるもので、体験型研修会として実施した。



常備する食料を使った避難食づくり

活動のポイント！



地元のNPOに協力を依頼することで、自主防災組織との連携強化を図り、地域防災力の向上に結び付けることができる。また、“料理教室”として実施することで、防災活動に対して遠慮しがちな主婦層を募ることができた。

当日までのスケジュール等

- 10月
- 企画書の作成
 - 地元のNPO、県への協力依頼
 - 案内チラシの作成・周知

- 11月
- 食材、器具の調達
 - 防災料理教室の開催（11/12）

Check!

普段からこうした知識・技術を身に付けておき、ライフラインが断絶してもしばらくは生活できる環境をつくっておくのも防災の取組みの一つです！

当日の料理メニュー

現代のように冷蔵庫で食材を保存する術がない時代では、食材を塩漬けしたり乾燥したりして保存していました。伝統的な田舎料理には、食物繊維・炭水化物・タンパク質、ビタミン・カルシウムなどが豊富なものが多いです。避難所生活で不足しがちなエネルギーや栄養素を摂取できるので、災害時の栄養失調などの2次被害を防ぐことができます。

うずら豆コロッケ

豆類に含まれるビタミン B1 は疲労回復や糖質の分解を助けます

【材 料】
うずら豆の煮た物
玉ねぎ、人参
小麦粉、塩こしょう
パン粉、菜種油



大豆たんぱくの唐揚げ

タンパク質が不足すると代謝が低下し体が弱る原因となります

【材 料】
大豆たんぱく、水
醤油、にんにく
生姜、小麦粉、塩



芋がらと干し椎茸の佃煮

干し椎茸のビタミン D はカルシウムの吸収を助け免疫を強化します

【材 料】
干し芋がら、干し椎茸
醤油、塩



切り干し大根とひじきの白和え

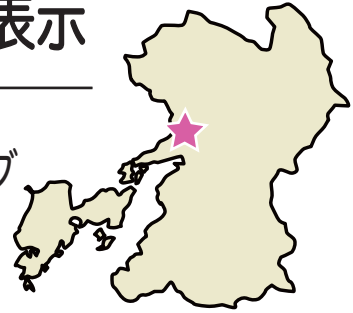
切り干し大根とひじきにはカルシウムや食物繊維が豊富 血圧の改善に役立ちます

【材 料】
切り干し大根
ひじき、人参
豆腐、醤油、塩



九電・NTT協力による電柱への標高表示

自主防災組織名：黒髪校区第4町内自主防災クラブ
所在地：熊本市中央区黒髪校区



活動内容

黒髪校区第4町内会は、平成24年7月の九州北部豪雨で白川が越水した熊本市龍田校区のすぐ傍にある町内会である。昭和28年の白川大水害以降、度々水害の危険に晒されている地域であるため、住民への意識づけを目的に標高表示板を設置した。

設置にあたって九州電力株式会社熊本支社及びNTT西日本熊本支店に相談したところ、両社と熊本市との協定が必要になるとのことから、熊本市危機管理防災総室に相談し、平成27年2月に両社と熊本市との協定締結に至った。

当自主防災クラブは平成12年から組織を設立し、以来、毎月の広報誌の作成や定期的な訓練等により地域住民の意識向上を図り、資源回収により活動資金を確保するなど活発に活動しており、住民の意識啓発のための新たな手段として今回の標高表示板の設置に取り組んだ。



標高表示板



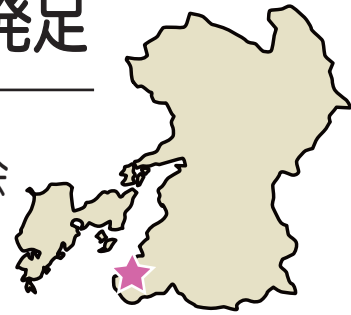
表示板の取り付け

活動のポイント！

自主防災組織の働きかけにより行政と企業が動いた成功事例。表示板の設置にあたっていくつかの規制はあるものの、浸水害や津波の危険性がある地域の住民に対する意識啓発の手法としては有効。

水俣市自主防災組織連絡協議会の発足

自主防災組織名：水俣市自主防災組織連絡協議会
所在地：水俣市



活動内容

水俣市では、平成15年に発生した土石流災害を教訓に、自主防災組織の育成に積極的に取り組んでいる。自主防災組織率は、平成26年10月1日現在で99.2%に達しており、次の課題は活動内容の充実となる。

そこで、設立された自主防災組織が継続的に活動できるよう、自主防災組織間の情報共有や知識・技術の向上を目的に、市内の主な自主防災組織の会長をメンバーとして、平成26年4月1日に連絡協議会を発足した。第1回の連絡協議会では総会を兼ね、県の自主防災組織支援員を招き、組織の必要性や役割を再認識するための研修を実施した。

今後も定期的に参加し、市の総合防災訓練に連絡協議会として参加するなど自主防災組織の活動活性化を図っていくこととしている。



水俣市自主防災組織連絡協議会設立総会



水俣市自主防災組織連絡協議会研修会

活動のポイント！

自主防災組織を設立しても、活動にあたって互いに連携したり、隣近所の自主防災組織がどういった活動をしているのかを知る機会は少ない。連絡協議会の設置はそうした問題を解消するのに非常に有効である。

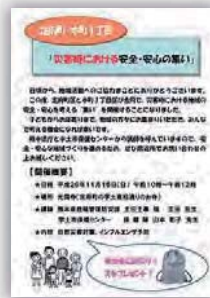
資料編

ここでは、今回モデルとなった地区の自主防災組織がそれぞれの活動で使った当日の資料はもとより、事前の企画会議の資料や住民へ案内したチラシ等について、主なものを抜粋して掲載します。資料全体は別途、県のホームページにおいてデータとして掲載しています。閲覧・ダウンロードが可能となっていますので、ご確認ください。

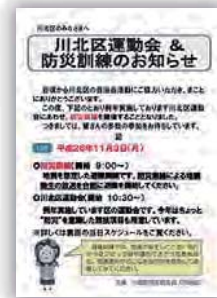
住民へのお知らせ・案内チラシ



大江校区3・4・5町内 (もちつき大会)



本町1丁目区 (防災研修)



川北区 (地区運動会 & 避難訓練)

企画会議、活動当日資料



阿村地区企画会議 (防災マップづくり)

品名	数量	担当	準備状況
非常食	1000個	田中	〇
水	200L	田中	〇
紙皿	1000個	田中	〇
紙コップ	1000個	田中	〇
紙ナプキン	1000枚	田中	〇
トイレットペーパー	1000枚	田中	〇
手拭紙	1000枚	田中	〇
消毒薬	1000ml	田中	〇
ゴミ袋	1000個	田中	〇
その他			

上松山地区企画会議 (非常食づくり準備分担表)



本町1丁目区 (防災研修資料)

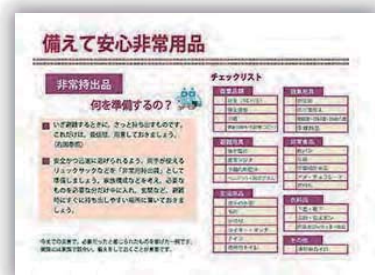
その他 (イラスト、デザイン等)



「命のバトン」シール



災害図上訓練イラスト



非常用持ち出し品リスト

データの閲覧・ダウンロードについて

左ページ掲載のデータを含む全ての資料データを、熊本県ホームページにワード版もしくはPDF版等で掲載していますので、ダウンロードしていただき、ぜひご活用ください。
なお、掲載ページには以下の手順でアクセスできます。



① 県HPトップページの「くらし・環境」をクリック



② 「防災・災害・危機情報」をクリック



③ 「防災・災害」をクリック

※同じデータを CD-ROM にて各市町村防災担当課へ配布しています。

自由な発想で自主防災活動を！

県ホームページに掲載している資料データは、12の事例で実際に使われたあらゆるデータを、できる限り編集可能な形式で掲載しています。

事例からも分かるように、自主防災活動にはこれといった規則・ルールはありません。皆さんの自由な発想でできる活動です。また、地域が一体となりアイデアを出し合って取り組むことで、防犯や福祉など様々な拡がりも期待できます。

この事例集をご覧になった皆さんが各事例を参考に、掲載の資料等をうまく活用しながら、今後の継続的な活動にお役立ていただければ幸いです。

熊本県防災情報メールサービスへ登録を！

熊本県に関する防災情報などをメールで受けることができます。最新の気象情報、避難情報等が即時に送信されますので、災害への備えとしてお役立てください。

メール配信サービスの登録・変更は、こちらに空メールを送信してください。

entry@anshin.pref.kumamoto.jp

(このメールは、本サービスの運営を委託している事業者へ直接届けられます。)

《ご注意下さい》

携帯電話などで迷惑メール防止対策の設定をされている方は、登録される前に **bousaimail@anshin.pref.kumamoto.jp** からのメール受信が可能ないように設定を行ってください。



役に立つ防災情報サイト



熊本県統合型防災情報システム

熊本県防災情報ホームページ

内閣府防災情報ページ

消防庁

気象庁

国土交通省

消防大学校

熊本地方気象台

<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>

<http://cyber.pref.kumamoto.jp/bousai/>

<http://www.bousai.go.jp/>

<http://www.fdma.go.jp/>

<http://www.jma.go.jp/>

<http://www.mlit.go.jp/>

<http://fdmc.fdma.go.jp/>

<http://www.jma-net.go.jp/kumamoto/>

お問い合わせ

熊本県知事公室危機管理防災課防災企画班

TEL : 096-333-2811

FAX : 096-383-1503

E-Mail : kikibosai@pref.kumamoto.lg.jp